

第2回 長浜市学校園の適正規模・適正配置検討委員会 要点録

日 時 令和6年6月17日(月)13時40分～16時00分
場 所 永原小学校、にしあざい認定こども園
出席者 (委員)水本座長、大橋副座長、西川委員、塚田委員、森委員、中川委員、
 水谷委員、福永委員、辰野委員、文室委員、喜田委員
 (事務局)為永管理監、稲葉課長代理、成田室長、廣部副参事、藤田指導員
欠席者 西田委員

永原小学校視察 (13時40分～14時43分)

1. 学習参観

2. 学校から資料に基づいて説明

- ・学区の説明。9つの字があるが、3つの字には小学生はない。菅浦から9kmあるため、バス通学している。
- ・教務主任がない。出張があれば、管理職が入っている。複数体制を組むための努力をしている。
- ・複式学級のため、教員数が減ってくると、非常につらい。
- ・(小規模校の)よさとしては、きめ細やかな指導ができる。児童全員に出番がある。急な変更ができる。
- ・マイナス面としては、男女のバランスが偏ってしまう。幼少期から良く知っている同士なので、必要以上に切磋琢磨しようとしている。体育などのチームプレイが非常にやりにくい。意見や考えの広がりが出にくい。フローティングスクールなど大人数の学校と交わった時に、いつもの自分が出せない。
- ・山門湿原の森が学習の柱となっている。総合的な学習の時間、理科、社会などカリキュラムの中心になっている。ユネスコスクールのキャンディデート校になっている。
- ・地域のボランティア活動が活発で、PTAの広報もボランティアが作成してくださっている。プール掃除、草刈り、入学式の装飾もしてくださっていて、地域に支えられている、地域とともにある学校である。

3. 意見交換

- ・運動会、修学旅行等、集団活動や行事での教育効果が下がることははあるのか。
→一長一短がある。一人一人の出番が多く、一人一人が活躍できるよさはある。ただ、切磋琢磨する機会がないので、その点で弱い、自分の能力を伸ばすことについては物足りないと感じる。行事では、全校で取り組みやすい場合がある。

- ・体育科の競技や音楽科の合唱・合奏などの集団学習がやりにくい面はあるのか。
→可能な限り、学年の発達段階を考慮して、学年部でできるものはできるだけ学年部でやっている。水泳や球技などは学年部で取り組んでいる。
- ・教員と児童の心理的な距離が近くなりすぎて、問題等はあるか。
→ない。今のところ、子どもと接近しすぎてということはない。すごくよい人間関係が子どもと教師にできている。
- ・児童から多様な発言を引き出しにくく、授業展開に制約が生じることはあるか。
→あると思う。順番に発表してもすぐ終わってしまう。意見を深める、広げるという面は、教員の手腕や工夫にかかると思う。
- 担任としては、全員が発表するだけで終わってしまうことはあり、意見を深めようとしても、意見を膨らませにくい。
- ・児童数が減少していることを、学校運営協議会、地域づくり協議会等と協議をしているのか。協議している場合、今後のあり方など共通理解していることがあれば教えてほしい。
→<事務局より 学校の在り方懇談会について説明>
- ・教員の経験年数や専門性、男女比などバランスの取れた教員配置、指導の充実に関わり問題はないか。
→今のところ、教職員の構成についてはバランスが良い。年齢的には、40代はいないが、みんなが和気あいあいとしている。教員も少人数なので、協議をしなくてもその場で決定していく良さ、OJTで互いに教え合う姿が見られる。大きな学校の教員集団に比べたらスムーズかもしれない。
- ・教員が少ないことで、校務負担や行事の負担が重いように思うが、どうか。
→非常に負担がある。特に職員が休んだり出張したりした時、出張を断ることもある。運動会等行事については、地域の保護者のボランティアの協力があるので、非常に助かっている。
- ・(小規模校のため)やりたいけれど、やれないことはあるか。
→逆に小規模だからできることもある。小規模校では単級なので、自分がやってみようと決めたことはスムーズに取り組むことができる。しかし、経験が浅い先生にとっては、困り感がある。大規模校では隣のクラスの先生に聞くことができるが、小規模校は学年一人なので聞くことができない。助けたいと思うが、自分のクラスのことがあり、難しく思う。
- ・縦割りの活動の中で、少人数であることのデメリットをカバーできるか。
→学年の壁に隔たりがないと思う。普段関わる機会のない子と関わりやすいことは、縦割りのよさだと思う。
- ・校長先生が学校経営として、ここだからできることとここだからやりたいけど難しいことはあるか。

→思い切ったことができる。大規模校で教員が多いと、いろいろな意見が出て進みにくいことがあるが、ここでは「やりましょう。」とすぐに決まることがある。ダイナミックに変えることができる。そういう点ではやりやすい。

しかし、子どもたちが切磋琢磨する、磨き合うという指導ができにくい。

- ・小規模校での難しさをカバーする研修や活動はあるのか。

→本校はOJTがしっかりしている。第2第4金曜日は5校時で下校するので、その時間に研修を設けている。

- ・参観で、どの教室もいわゆるスクール形式でしたが、工夫していることはあるか。

→学習場面によって、机を臨機応変に変えられるのも少人数のよさで、輪になつたりグループで集まつたりしている。

- ・クラブ活動の運営の仕方は。

→クラブ活動は、4・5・6年生で、クラブ数は4つある。昨年度はもう少し多かったが、一つのクラブに教員が二人つけるようにするために、クラブ数を減らした。委員会も今年度は減らして、4つで活動している。

にしあざい認定こども園視察（15時00分～16時02分）

1. 保育参観

2. こども園から資料に基づいて説明

- ・園児数、クラス等説明

・10年前は100人ほどいたが、ここ数年で急激に園児数が減っている。

・丈夫な体と豊かな心を育むために、園庭遊びの充実に取り組んでいる。本園の特色である、ビオトープがあり、子どもたちは生き物に魅力を感じている。飼育にも取り組んでいる。子どもの学びにつながっている。

・生き物に対しても、ゲーム感覚が見られ、生き物の死に向き合うことができず、つかまえることはできても逃がしたり放したりすることができにくい。

・ロープのブランコは、民生委員が作ってくださった。子どもたちは、スリルやバランスを楽しんでいる。

・真夏と積雪のある冬以外、天気のいい日は、マラソンをしている。園を出て、西浅井中学校の敷地を通り、大川の堤防沿いを走り、約1km。

・自然のままの原風景が本園の持ち味。園にいる時間だけでも、自然体験をさせたい。遊び込む子を育てるため、その環境づくりを1学期中心に取り組んできた。

・行事や環境準備は、4歳児担任と5歳児担任が一緒に行っている。一人の負担は大きいと思うが、ほかの学年の先生と準備をしながら、学んでいる姿がある。

・クラスの園児数は10数名なので、子どもと先生との関係は強く持てている。しかし、単学級のため、若い先生にとっては担任一人で計画を立てて環境を考えて作る

など、全て行わなくてはならないのがしんどいのではないかと思う。若い職員は、ベテランの職員から環境づくりや安全管理などを学んでいる。経験豊かな会計年度任用職員も多いので、場面ごとにリーダーとなって、みんなで頑張っている。

3. 意見交換

- ・保護者の子育ての不安、子どもが育ち社会に出ることへの不安を聞いているか。
→小学校での男女比の偏りについて不安があったと思う。ただ、祖父母が近くにおられたり、お母さん同士が仲良く、話されたりしているので、不安は少ないのではないか。
- ・先生方と保護者の皆さんも意思疎通しやすいか。
→しやすい、気楽に話してくださる。保護者や祖父母までわかるアットホームな園のよさはあると感じた。
- ・子どもが減っていった時の園の課題、不安はあるか。
→園経営ができるのかの心配がある。子どもが減っていき、子ども同士お互いのイメージが固定化してしまうことがないように先生や管理職が見ていかなくてはならないと思う。
- ・小学校との連携は。
→連携は、10年前から職員全体が部会に分かれて熱心にされていた。以前と比べると多少回数は減ったと思うが、現在も定期的に校園長会を行い、各校園に行って互いの園児、児童、生徒を参観している。7月には、両小学校の先生全員が5歳児を参観もしてもらうので、園児は小学校先生の顔を覚え入学後を楽しみにしている。
- ・地域の方がボランティアとして関わっておられることを聞いたが、保護者が関わっているわけではないのか。
→令和3年度に園庭環境整備で、タイヤを埋める作業にPTA役員を中心に教職員と一緒に携わっていただいた。その時に重機を持ってきて大がかりな環境づくりをしていただいたということも聞いている。
- ・人数が少ない中で、PTA役員はどのように決めているのか。
→以前は字役員から決めていたが、人数が減って字に一軒しかないと毎年しなくてはならないので、決め方を変えて3・4・5歳児の保護者で構成して、卒園するまでに一回あたるよう、クラスの3分の1ずつ選出し役員になっていただく。その中で選挙をして、会長、副会長を決めている。
- ・選挙をした場合、外見ではわからない疾病を持っておられる方になったら、どうするのか。
→夫婦のどちらかが受けてくださっている。